

## さよならバイスタンダー

## 「3月のライオン」のOP2

かわ そ はし でんしゃ おと  
川沿いを走る電車の音

う つ む い て 咲 く 向 日 葵 の 色

ゆ う や  
夕焼けがしましまのボーダーになる

「ありがとう」って君が言うたんび

な き も なん  
泣きそうな気持ちになるのは何でだ

こ ども  
子供みたいにさ

な み だ れ い そ う こ お  
涙なら冷蔵庫に置いてきたはずだ

か う れ こ ほ  
勝って嬉しい はないちもんめ あの娘が欲しい

さよならバイスタンダー ぼく ある い  
僕らは歩いて行く

この道行きの最後が まち ゆ さい ご てんごく  
天国か そこらじゃあないとしても

ただの君と笑って立っていたいよ

ほ こ ね が き ぼう  
誇らしさとか 願いとか 希望とか

もっと ずっと も あ  
持ち合わせとくよ

こわくて こわくて こわくて し ず  
沈みそうでも

あ の 娘 に ち か  
誓うよ

さ こ  
錆びついて壊れてるシェルター

なん ど か く  
何度でも隠れてみたけど

あ た ま か く し り か く  
頭隠して尻隠さずってやつさ

あ ま え あ ま え  
当たり前は当たり前じゃない

さいのう と ちゅう う  
才能は途中で生まれない

な ぜ さいしよ き  
何故か最初から決まってる

ひたい あせ な が め し いた  
額から汗が流れて目に沁みて痛い

ま  
負けてくやしい はないちもんめ あ の 娘 じゃ あ わ か ら ん

さよならバイスタンダー　<sup>いま</sup>　<sup>ある</sup>　今まで歩いてきた  
つたない文字の<sup>も　じ</sup>無邪気な<sup>む　じゃ　き</sup>足取りが　<sup>あし　ど</sup>　<sup>まちが</sup>間違いだらけだとしても  
<sup>よる</sup>　<sup>あ</sup>　夜は明けた　<sup>おお</sup>　<sup>こえ</sup>　大きな声で<sup>さけ</sup>叫ぶよ  
<sup>つつ</sup>　慎ましさとか　<sup>こ　どく</sup>　孤独とか　<sup>むな</sup>　空しさを  
もっと<sup>し</sup>知って<sup>あい</sup>愛されていくよ  
こわくて　こわくて　こわくて<sup>な</sup>　<sup>だ</sup>投げ出したくても  
<sup>ぼく</sup>　僕は　<sup>ぼく</sup>　<sup>ちか</sup>僕に誓うよ

さよならバイスタンダー　<sup>ぼく</sup>　<sup>ある</sup>　僕は歩いて行く  
この<sup>まち　ゆ</sup>道行きの<sup>さい　ご</sup>最後が　<sup>てんごく</sup>天国か　そこらじゃあないとしても  
ただの<sup>きみ</sup>君と<sup>わら</sup>笑って<sup>た</sup>立っていたいよ  
<sup>ほこ</sup>　誇らしさとか　<sup>ねが</sup>　願いとか　<sup>き　ぼう</sup>　希望とか  
もっと　ずっと　<sup>も</sup>　<sup>あ</sup>　持ち合わせとくよ  
<sup>まも</sup>　守るよ　<sup>まも</sup>　守るよ　<sup>ぼく</sup>　<sup>すべ</sup>　僕の<sup>ささ</sup>全てを捧げ  
<sup>め</sup>　目の<sup>まえ</sup>前の<sup>きみ</sup>君に　<sup>ちか</sup>　誓うよ

かわぞいをはしるでんしゃのおと  
川 沿 走 電車 音

うつむいてさくひまわりのいろ  
咲 向日葵 色

ゆうやけがしましまのボーダーになる  
夕 焼

「ありがとう」ってきみがいうたんび  
君 言

なきそうなきもちになるのはなんでだ  
泣 気 持 何

こどもみたいにさ  
子 供

なみだなられいぞうこにおいてきたはずだ  
涙 冷 蔵 庫 置

かってうれしい はないちもんめ あのこがほしい  
勝 嬉 娘 欲

さよならバイスタンダー ぼくらはあるいていく  
僕 歩 行

このまちゆきのさいごが てんごくか そこらじゃあないとしても  
道 行 最 後 天 国

ただのきみとわらってたっていたいよ  
君 笑 立

ほらしさとか ねがいとか きぼうとか  
誇 願 希 望

もっと ずっと もちあわせとくよ  
持 合

こわくて こわくて こわくてしずみそうでも  
沈

あのこにちかうよ  
娘 誓

さびついてこれてるシェルター  
錆 壊

なんどでもかくれてみたけど  
何 度 隠

あたまかくしてしりかくさずってやつさ  
頭 隠 尻 隠

あたりまえはあたりまえじゃない  
当 前 当 前

さいのうはとちゅうでうまれない  
才 能 途 中 生

なぜかさいしょからきまってる

何故 最初 決

ひたいからあせがながれてめにしみていたい

額 汗 流 目 沁 痛

まけてくやしい はないちもんめ あのこじゃあわからん

負 娘

さよならバイスタンダー いままであるいてきた

今 歩

つたないもじのむじゃきなあしどりが まちがいだらけだとしても

文字 無 邪 気 足 取 間 違

よるはあけた おおきなこえでさけぶよ

夜 明 大 声 叫

つつましさとか こどくとか むなしさを

慎 孤 独 空

もっとしってあいされていくよ

知 愛

こわくて こわくて こわくてなげだしたくても

投 出

ぼくは ぼくにちかうよ

僕 僕 誓

さよならバイスタンダー ぼくらはあるいていく

僕 歩 行

このまちゆきのさいごが てんごくか そこじゃあないとしても

道 行 最 後 天 国

ただのきみとわらってたっていたいよ

君 笑 立

ほらしさとか ねがいとか きぼうとか

誇 願 希 望

もっと ずっと もちあわせとくよ

持 合

まもるよ まもるよ ぼくのすべてをささげ

守 守 僕 全 捧

めのまえのきみに ちかうよ

目 前 君 誓